| 学習指導要領 | | 都立野津田高校　学力スタンダード |
| --- | --- | --- |
| Ａ  話すこと・  聞くこと  Ｂ  書くこと  Ｃ  読むこと    伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ア　話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。  イ　目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。  ウ　課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。  エ　話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。  ア　相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。  イ　論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。  ウ　対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。  エ　優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。  ア　文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。  イ　文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。  ウ　文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。  エ　文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。  オ　幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。  ア　伝統的な言語文化に関する事項  （ア）言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。  （イ）文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。  イ　言葉の特徴や決まりに関する事項  （ア）国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。  （イ）文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。  ウ　漢字に関する事項  （ア）常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。 | 調べた内容を参考にして自分の考えを持ち、根拠に基づいて話すことができる。  目的や場面に応じた分かりやすく適切な言葉で話をしたり、メモを取りながら聞き取ったりすることができる。  相手の考えを受け止め、自分の考えを説明したり、話し合ったりすることができる。  自己評価や相互評価等の様々な評価を通して、自分の話し方や言葉遣いを見直し、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気付くことができる。  まず誰に向かって何のために書くのかを考え、題材や文章の形態にふさわしい文体や語句を用いて書くことができる。  論理の構成や展開の仕方について知り、自分の考えをその根拠と結び付けて文章にすることができる。  説明や描写の違いなどを知り、相手や目的を意識した表現の仕方で書くことができる。  自他の文章への評価を通して、自分の表現を見直し、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気付くことができる。  【現代文】  文章の形態（小説・評論・韻文など）における表現の特色を意識しながら読むことができる。  【古典】  比較的短く平易な文章について、文章の形態の違いを知り、表現技法や語句の使い方に注意して読むことができる。  古文  ・歴史的仮名遣いに注意して音読することができる。  ・物語、随筆、日記、和歌などのジャンルの違いを意識して、それぞれの作品を読むことができる。  漢文  ・漢文の基本的なきまり（訓点・再読文字・置き字など）に従って音読することができる。  ・詩の形態や押韻を指摘することができる。  【現代文】  文脈をとらえ、筆者の考えなどを読み取ったり要約したりすることができる。  【古典】  比較的短く平易な文章を、基本的な文語のきまりや訓読のきまりに注意して、傍訳などの助けを得ながら、読み取ることができる。  古文  ・基本的な用言、助動詞、敬語、係り結びなどが用いられていることを意識して、文章を読み取ることができる。  漢文  ・訓点や基本的な再読文字（未、将など）、置き字（於、而など）などが用いられていることを意識して、文章を読み取ることができる。  【現代文】  登場人物を押さえ、行動や性格、心情の変化をとらえることができる。  登場人物の心情が情景描写にしばしば反映、象徴されることを理解する。  【古典】  比較的短く平易な文章の場面や人物を押さえ、誰が、どうしたという流れを読み取ることができる。  古文  『伊勢物語』や「児のそら寝（宇治拾遺物語）」などで  ・人物（誰が）、場面（いつ、どこで）、出来事（何を、どうした）を読み取ることができる。  漢文  李白「静夜思」や「死諸葛走生仲達（十八史略）」などで  ・人物（誰が）、場面（いつ、どこで）、出来事（何を、どうした）を読み取ることができる。  ・作者の心情を理解する。  様々な文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について考えたり、書き手の主張をとらえたりすることができる。  ・情景や心情の変化に注意して、作品全体のストーリーをとらえることができる。  ・用いられている文体の効果や、語句の工夫、対比、比喩などの表現技法を理解することができる。  ・具体例と意見を区別しながら、書き手の考えの強調点をとらえることができる。  様々な形態、内容、分野の本や文章を読み、そこから得た情報を評価し、自分の考えをもつことができる。  日本の伝統的な言語文化について基本的な事柄を知り、また外国の文化の影響に気付くことができる。  基本的な文語訓読のきまりを理解し、文章の音読や読解を行うことができる。  【現代文】  語句、語彙の構造的な仕組みとしての成り立ちについて基本的な事柄を知り、また、他の言語との比較から明らかになる表現の特色を活用することができる。  【古典】  言葉の歴史的な成り立ちと変遷、語彙の歴史的な経緯について基本的な事柄を知る。  【現代文】  文の成分や文章の構成、語句の意味、用法及び表記の仕方などについて基本的な事柄を知り、活用することができる。  【古典】  古語辞典や漢和辞典を引くことができ、基本的な古語や漢語の意味を知る。  常用漢字の大体を読み、学年別漢字配当表の漢字1006字を含む1300字程度を書くことができ、文や文章の中で使うことができる。 |